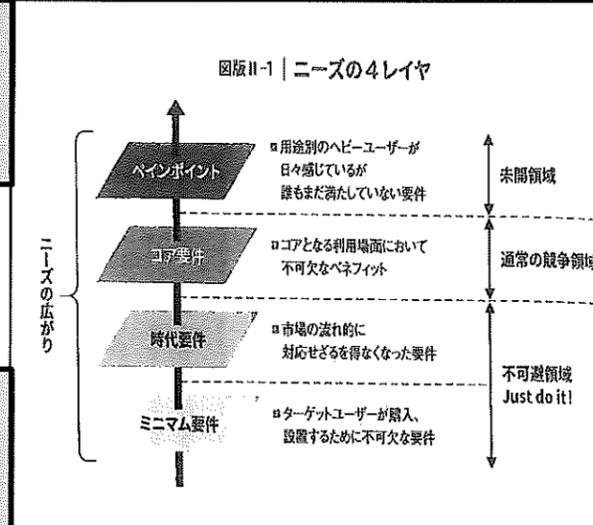


『「風の谷」という希望 残すに値する未来をつくる』 1/4	プロローグ	はじめに	1 取り組みの始まり	風の谷憲章	1 前文的なもの	2 「風の谷」はどんなところか	3 「風の谷」はどうやってつくるか	4 「風の谷」が大切にする精神	5 さいごに	第1部 風の谷とは何か	第1章 問題意識と構想	① 都市にしか住めない未来は正しいか			
② 都会 vs. 地方ではなく 都市 vs. 疎空間	③ 風の谷を位置づけるマトリックス	1 風の谷とリゾートの違い	2 風の谷と国立公園の違い	3 風の谷とコンパクトシティの違い	4 風の谷と村おこしの違い	5 風の谷とエコビレッジの違い	6 風の谷の位置づけ	④ スマートシティ1.0の教訓	⑤ よいコミュニティである以前に、よい場所である	⑥ 谷をつくるタテ系領域	1 人間と自然系	2 基盤インフラ系			
3 生活空間系	4 社会インフラ系	5 全体デザイン・文化創造系(10)	⑦ 3つのスケール	⑧ 数百年は続く運動論の最初の型を立ち上げる	⑨ 価値創造と人づくりの二重ループ	第2章 人類の2大課題	① 地球との共存	1 パンデミックも地球との共存課題の1つ	2 新しい平和の定義	② 人口調整局面	1 逆のスケラビリティ	③ レジリエンス問題			
④ 疎空間は人類の「実験場」	第3章 マインドセットとアプローチ	① ギャップフィル型ではなくビジョン設定型	② 解くべき課題を同定することに価値がある	③ エコノミクス視点から逃げない				1 自然法則との関係	2 経済原理との関係	3 持続可能な価値創造のサイクル	4 エコノミクスを活用する視点	④ すべての価値をゼロベースで問い直す			
⑤ コインの裏返しではなく、本質的な刷新	⑥ 系として考える	1 系の全体像を理解する	2 循環とフィードバックを理解する	3 効果的な介入方法を見極める				⑦ 目線を上げて楽しむ	第2部 解くべき4つの課題	① ニーズの4レイヤ	第4章 エコノミクス	① 都市からの「輸血」に依存			
② 疎空間維持にかかる2大コスト	③ 人口密度とエコノミクス	④ スケール則	1 疎空間のエコノミクスの2つの改善レベル	⑤ スケール則を超える4つの視点				1 都市スペックから谷スペックに	2 インフラの場合分けを行う	3 脱グリッド	4 谷と近隣の都市をセットで考える	⑥ 谷化によるエコノミクスの変容			
第5章 レジリエンス	① レジリエンスとは何か	1 心のレジリエンスと空間	2 谷のレジリエンスを実現する2つの設計思想	② Pandemic-ready: 「開」かつ「疎」=開疎化				1 開疎空間の設計原理	2 都市との新たな関係性	③ Disaster-readyの本質: 受け身力と復旧力	1 自然災害予測の現実的境界	2 受け身力と復旧力の均衡	3 受け身力の要諦: 適切な立地と基礎的備え	4 復旧力の要諦: 自立と再生の能力	5 Disaster-readyと4つの実践的問い
④ 被害を避ける第一歩: 安全な空間づくり	1 インフラによる対応の限界	2 デジタルツインによる予測能力の向上	3 谷を守る空間戦略とレジリエンスレベル	⑤ 災害時の三大死因を回避する				1 溺死の回避	2 圧死の回避	3 焼死の回避	⑥ 初動対応: 災害対応の臨界期を制する	1 初動対応に関する7つの課題	2 No Blackout (NBO): 谷の生命線	3 通信と電力の確保	2 情報開示と連携の重要性
⑦ 受け身力と復旧力の実装	1 対応すべきインフラの分類	2 自立型インフラの具体的実装	3 空間の創造的再生	4 谷コミュニティのレジリエンス能力開発	⑧ 風の谷のレジリエンス: 100年の視点	第6章 求心力と三絶	① 疎空間が直面する人材流出の課題	1 負のフィードバックサイクルの現実	2 単純な人材流出防止策の限界	3 クリエイティブ・クラス的重要性	4 なぜクリエイティブ層なのか	5 出入りの活性化という発想			
② 絶景: 世界に誇れる景観価値の創造	1 世界的な景観の本質	2 景観価値は空間価値に直結	3 絶景を阻害する要因と解決策	③ 絶景: 創造性あふれる生活基盤の確立	1 クリエイティブ・ステイを支える環境	2 中長期滞在を可能にする環境	3 暮らしを支える仕組みの全体像	4 土地活用がもたらす可能性と課題	5 ジェントリフィケーションの回避	④ 絶快: 土地ならではの出会いと気づき	1 絶快を生み出す場づくり	⑤ 三絶の統合と実装			

『「風の谷」という希望 残すに値する未来をつくる』 4/4	第4部 実現に向けて	第14章 谷の空間をデザインする	① 谷における空間	① 自然との共生	(1) 自然との共存 (低環境負荷)	(2) 土地の素材を活かす美しさ	(3) 自然を五感で感じる	(4) 生物として心地よい空間性	(5) 自然が主役の環境デザイン	② 文化的価値	(1) 土地の記憶が感じられる重層性	(2) 固有の文化を持ち、育む土壌層性
③ 持続可能性	(1) 持続的に使える / 常に進化する柔軟性	(2) 人間らしい生活の質	④ 社会的価値	(1) 多様性を尊重する空間	(2) 人が集う魅力	(3) 開疎性をもたらす刺激と交流	1 有機的に発展を続けるシステム	② 空間づくりにおける重要な視点	1 誰もが借景の中で暮らしている	2 空間は社会的・文化的な価値観を反映する	3 自然と人工の二項対立は幻想	4 人は谷的な土地に惹かれる
5 微地形がさまざまな空間の特徴と深みを生み出す	6 高速の移動インフラは偏在をもたらす	7 意味的・機能的に交わり合う空間が活力を生む	8 谷における空間デザインの特長性	③ 空間フェロモンによる土地の求心力の活性化	1 土地の固有の価値と特徴	2 土地読みの4用途	④ ほぐす土木による空間再構築	1 海岸線のテトラポット問題	2 ダムとテトラの関連性	3 持続可能な土木への転換	⑤ 微デザインによる行動誘発	1 微デザインとミクロな空間フェロモン
2 ぶどう型とつくね型	3 余白のインストール	⑥ 谷空間の統合的アプローチ	1 谷ウォークスコア	図版14-54 全体スケールでの適切な空間配置の検討 					2 抗体構造	3 ハウスキーピング	4 空間フェロモンから谷全体のサンゴ礁的空間へ	⑦ まちと商業空間をつくる
1 土着×モダン	2 風土と地形を活かした建築アプローチ	3 現代技術と世界の土着×モダン建築	4 時間とともに育つ価値と未来への展望						5 ハッカブル:変化と適応を促す空間設計	6 まち商業空間に求められる施設	⑧ 生活オフィス空間をつくる	1 間(ま)による調停
2 まとまりを考える	3 利用イメージから空間をデザインする	⑨ 土地に「谷」が染み込む3つのフェーズ	1 発見・うめこみのフェーズ						2 点と点がつながるフェーズ	3 脱皮するフェーズ	⑩ 現実的課題、批判への応答、長期的展望	1 現実的な障壁と対応策
2 理想への批判と応答	3 長期的持続可能性の確保	⑪ 風の谷構想における空間デザインの位置づけ	第15章 風の谷という系を育む						① 谷という系について	1 開疎:系を支える空間思想	2 谷という系の深層	② 移動とモビリティ
1 モビリティとはなにか	2 移動のミルフィーユ	3 疎空間におけるモビリティの課題	4 新たなモビリティソリューション	5 オンデマンド型モビリティの実装に向けて	6 モビリティ再考:いくつかの重要な視点	③ シン・コモンズ	1 コモンズ問題とその新しい解決策	2 メンバーシップと関係性の設計	3 谷をつなぎ、育てる	4 web3 とコモンズの価値の創造	④ 谷化の5段階	⑤ 谷をつくる言葉
① 場所の本質的な価値 — 風の谷が持つ根源的な特質と、それが示す未来への指針	② 価値・行動規範系 — 谷づくりの根底にある思考と行動の指針	③ 自然との共生 — 自然を制御するのではなく、共に生きるための作法	④ 居場所と過ごし方 — 人が真に自分らしくいられる場所としての特質	⑤ 空間・建築の特徴 — 土地と対話しながら形作られる谷固有の空間構造	⑥ 時間と季節 — 自然のリズムと共に刻まれる時間の流れ方	⑦ コミュニティ、人間関係と人づくり — 階層ではなく有機的な関係性によって形作られるつながりのあり方	⑧ 持続可能性とレジリエンス — 柔軟な適応力を持つシステムとしての谷のあり方	⑨ 食と農 — 生態系の一部として営まれる食と農の世界	⑩ 道とモビリティ — 移動を通じて紡がれる谷の暮らしのあり方	⑪ ウェルビーイング — 心身ともに健やかに暮らせる場としての谷のあり方	⑫ テクノロジーと共生 — 暮らしに溶け込み、価値を高めるテクノロジーのあり方	⑬ コモンズ/ガバナンス — 共感と信頼に基づく運営の仕組み
⑥ 谷づくりを始める:明日からの一歩	1 土地との対話から始める	2 「三絶」の種を見つける	3 実験と循環の文化をつくる	4 長期的な視座を持ち続ける	巻末資料	① 谷化のガイドライン	1 自然と谷	2 基盤インフラとエネルギー	3 景観と生活空間	4 社会インフラ	谷をつくる言葉 谷ビトアンケート	あとがきにかえて 200年の祈りを込めて